

告示	番号	39	免疫疾患
	疾病名	慢性移植片対宿主病	

## 慢性移植片対宿主病

まんせいいいしょくへんたいしゅくしゅびょう

### 概念・定義

慢性 GVHD は造血幹細胞移植後の患者に発症し、自己免疫性疾患に類似した多様な症状を認める。再発・生存率と生活の質に大きく関連する晩期合併症である。慢性 GVHD に特徴的な臨床所見に基づいた NIH 診断基準や重症度判定基準が提唱され、日本造血移植学会では造血細胞移植ガイドライン(GVHD)が作成されている。

### 症状

急性 GVHD では認められない臨床症状を、他の検査所見や他の臓器病変がなくとも慢性 GVHD と診断できる特徴的な徴候を diagnostic sign と、比較的特徴的ではあるが、他の疾患と鑑別するためには検査所見や他の臓器病変の存在を必要とする徴候を distinctive sign に分類する。慢性 GVHD の診断には少なくとも一つの diagnostic clinical sign が存在すること、あるいは病理検査や臨床診断などで裏付けられた少なくとも一つの distinctive manifestation が存在することが必要である

### 治療

慢性 GVHD に対する治療は全身療法として最初に行われる一次治療と抵抗性の場合の二次治療、および局所療法、支持療法に分けられる。標準的な一次療法は副腎皮質ステロイドであるが、抵抗性の場合の標準的な二次療法は確立されていない。局所療法と全身療法の適応は、慢性 GVHD の重症度分類に基づくが、開始時期や治療強度は厳密なものではなく、①慢性 GVHD 診断時予後不良因子の有無、②基礎疾患が腫瘍性か非腫瘍性か、③感染症合併の有無とその危険性、④病変の伸展速度等の様々な要件をふまえて患者毎に決定される

抜粋元：[http://www.shouman.jp/details/10\\_11\\_56.html](http://www.shouman.jp/details/10_11_56.html)